

2012年
2月
第7号

ノート

ノートはNPOアスイクが発行するニュースレターです。
発行 NPO法人アスイク
TEL 022-781-5576
URL <http://asuiku.sendai-net.com/>
Email info@asuiku.org
住所 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5丁目
3-21コーポ小松 101

トピック

アメリカ発のNPO「Teach For Japan」との連携開始

2月11日より、当団体の学習支援センター「19 Tsutsujigaoka (じゅーくつつじがおか)」でNPO法人Teach For Japanとの連携プログラム“寺子屋くらぶ”が始まりました。

Teach For Japanは、1989年にプリンストン大学のウェンディ・コップという女性が立ち上げたTeach For AmericaというNPOの日本版。Teach For Americaは、就職希望ランキングで1位になるほど、アメリカでは有名なNPOです。Teach For Japanの特徴は、意欲の高い学生を選抜して育成するプログラム。著名な講師を招いて、事前研修に丸二日かけるほど、徹底したトレーニングを施しています。

アスイクでは、特別講座の一つとして、毎週土曜日にTeach For Japanの学生講師による寺子屋くらぶを開始。概ね2ヶ月ごとに区切られるプログラムですが、第1期目は日頃「19 Tsutsujigaoka」に通う子どもに加え、仙台市内の仮設住宅などから11名の小中学生が参加しています。

特に仮設住宅の子どもたちは、アスイクでは週に1回のペースでしかサポートできていませんので、寺子屋くらぶが学習習慣や意欲をさらに高める場になればと期待しています。



活動報告

被災した子どもたちの問題を考えるミニフォーラム開催

1月28日に、学習支援センター「19 Tsutsujigaoka」で“被災した子どもの問題を考えるミニフォーラム”を開催しました。

このミニフォーラムは、1月11日に東京で開いたシンポジウムの仙台版。東京のシンポジウムは100名ほどの参加者とパネラーを招いたカチッとした場でしたが、今回は、少人数で相互交流のあるフランクな雰囲気で開催しました。



当団体の学習サポーター、支援者をはじめ、民間企業の経営者、NPOの代表、行政職員、テレビ局のディレクターなど、21名の多様な方々にお集まりいただきました。色々な立場から、ご自身が感じられていること、これから何をすべきか、ざっくばらんに意見交換。

会場からは、「こういう思いをもった人たちがいる地域ならば、未来に期待できる」といった嬉しいコメントも。穏やかな熱気に包まれた、素晴らしい場になりました。

ボランティア相談会@東北大学

2月9日(木)東北大学で開催された、『ボランティア相談会』に参加しました。

相談会の名前の通り、参加団体がブースを設置して、訪れた学生の方々とじっくりお話できるスタイル。「ボランティア活動をしたかったけれど、試験や授業が忙しくてなかなかできなかった」「子どもと触れ合う機会が今までなかったので、自分にできるか不安」など、学生の生の声を聴くことができました。

東北大学は、「ボランティア支援室」を設置し、学生によるボランティア活動を促進していく予定です。長期的に地元の学生が学習サポーターとして関わっていただけるよう、大学との連携をさらに強くしていきたいと思っております。



活動報告

東京の学習支援NPO「TEDIC」と連携開始

2月、3月の春休み期間中、首都圏からTEDICの皆さんが学習サポーターの一員として参加してくださいました。TEDICは様々な大学から集まった教員志望の大学生・大学院生が集まった学生団体で、震災直後から週末を利用して石巻などの各NPO団体と連携して学習支援活動を続けています。



「学生から生徒への一方向的関係ではなく、学生と生徒1人1人の双方向の関係、お互いにリスペクトし合い、お互いがお互いから学んでいく姿勢を大切に活動したい」という活動理念にアスイクにも共通するものがあると思います。

現場の声を首都圏に広げていただけるとのこと。今後の活躍に期待が高まります。

サポーター紹介

『19 Tsutsujigaoka』で活動をしております澤口 里穂と申します。



ーこの活動に参加したきっかけは？

大学の友達から、一緒にやらないかと誘われたことがきっかけです。

ー大学ではどんなことをしていますか？

心理学科で臨床心理の勉強をしながら、サークルやボランティアにも積極的に参加してきました。定期的に施設に訪問してアロママッサージをしたり、子どもたちによさこいを教えたり、様々なボランティアをしてきました。今後は発達障害を持った子どもたちへのボランティアもやってみたいと考えています。

ーアスイクの活動を通して、どんなことを感じますか？

子どもたちから「わかりやすい!」と言われてたり、一生懸命話しかけてくれたりすると、とても嬉しく感じます。疲れたりすることもあります。子どもたちと触れ合うことで元気をわけてもらえるような気がして、次も頑張ろうと思えます。

ー最後に一言お願いします。

私自身、まだまだ力不足を感じることも多くありますが、研修に参加したり他のサポーターと協力して、子どもたちにとってよりよい環境を作っていきたいと思っております。勉強が苦手でも定期的に来てくれる子どもたちのために、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(1990年生まれ、宮城県出身。東北福祉大学総合福祉学部3年)



スタッフ紹介

こんにちは、NPO法人アスイク事務局の萩原と申します。

学生時代に軽い気持ちで始めた塾講師のアルバイトが、私が教育業界に携わるきっかけです。授業や普段の会話を通して、子どもたちが成長し、変わっていく姿を見ることにとってもやりがいを感じ、塾講師や家庭教師として長く働いていました。

そんな私の気持ちは、昨年3月の震災で少しずつ変わっていきました。震災をきっかけに、担当していたご家庭から経済的な理由で指導を続けることが難しいというお話を聞くことが増えてきたのです。どうにかして指導を続けることはできないものか、非常に悩みました。もっと違う形で、子どもたちに勉強を教えることができるのではないか。そんなとき、アスイクと出会いました。

アスイクでの活動を通して、より多くの子どもたちに学習の機会を与えられ、笑顔になれる環境を皆様と一緒に作りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(1986年生まれ、仙台市出身。東北学院大学工学部卒業)

